ガソリン・プロパンガスを使用する際の注意事項

【千葉市消防局】

1　ガソリンの危険性

　ガソリンは気温が－４０℃でも気化し、ライター・静電気等の小さな火源でも爆発的に燃焼する物質です。取り扱う際は十分な注意が必要です。また、保管することは極力控えてください。

2　ガソリンを入れる容器

　ガソリンを入れる容器は、消防法令により一定の強度を有する材質のものを使用することとされています。特に、灯油用ポリ容器にガソリンを入れることは非常に危険なので、絶対に行わないでください。

3　ガソリン携行缶の使用手順

（1）まわりに火気がないことを確認し、携行缶を水平な場所に置いてください。
（2）エア調整ネジを緩め、圧縮された空気を抜いてください。
　　<u>※この操作を行わずにキャップを開けると、圧縮された空気とともにガソリンが噴き出すおそれがあります。</u>
（3）キャップを外してください。
（4）給油口（キャップを外した部分）にノズルを取り付けてください。
（5）ノズルをまっすぐにして給油してください。
（6）給油口からノズルを外してください。
（7）キャップとエア調整ネジを確実に締め付けてください。

4　ガソリンスタンド利用時の注意事項

　セルフスタンドでは利用客が自らガソリンを携行缶に入れることはできません。

ガソリン携行缶を使用する際は、取扱説明書を良く読み使用方法を守ってご使用ください。

5　プロパンガスボンベをガスこんろ等に接続する際の注意事項

（1）ガス漏れを防ぐため、ゴムホース等は器具との接続部分をホースバンド等で締め付けてください。
（2）ゴムホースは、適正な長さで取り付け、ひび割れ等の劣化がないか点検してください。
（3）プロパンガスボンベは、直射日光の当たらない通気性の良い場所に設置し、転倒しないよう固定してください。